



④ 日本の諸地域でのワンポイント活用例 ～関心を高めて理解させる資料提示～

桐朋女子中・高等学校 教諭 内藤 芳宏

◆**単元名**：第3章 日本の諸地域③ 日本の東北部 7 北海道地方 ～自然環境を中心に考えよう

「④『とる漁業』から『育てる漁業』へ」(教科書 pp.244-245)

◆**本時の目標**：

北海道の漁業は、北洋漁業からどのような漁業へと変化してきたかについて理解する。背景となる国際的な条約の採択、周辺国の漁業の実態も併せて知ること、日本の漁業全体についても振り返る。

《**本時の展開例**》

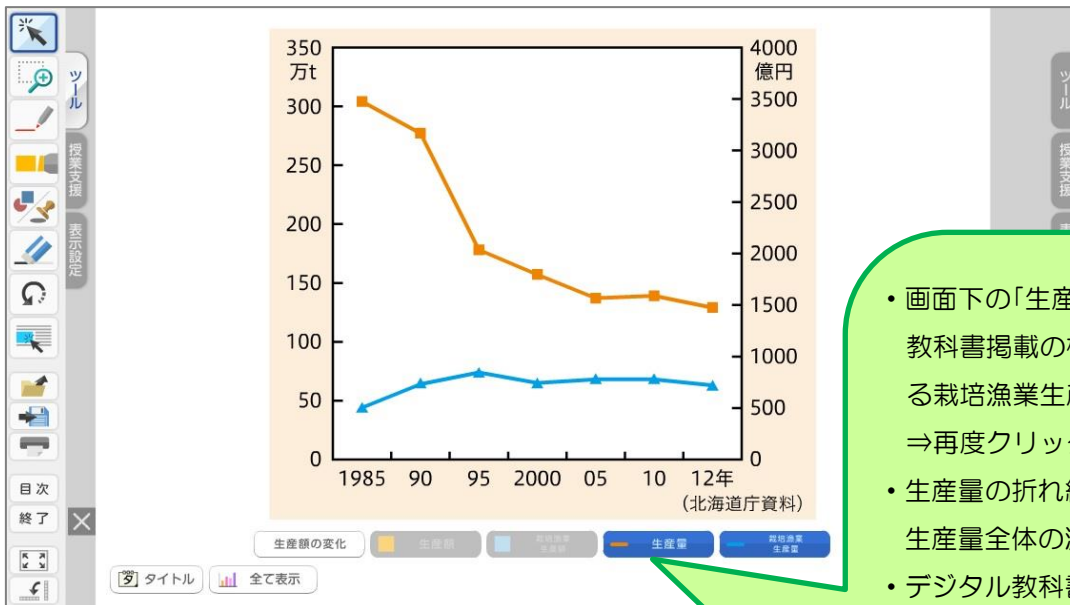
	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ●「③東北地方の食文化と水産業(pp.230-231)」で学習した魚種別の都道府県別漁獲量(p.231・5)を復習する。 【問】北海道で捕れる魚介類は何ですか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 p.244・1と2の写真は、河川と海上で撮影されていることから、「さけはどこで育つのか」学習の糸口を掴ませる。 ・p.231・5から、北海道で漁獲量が多い魚種を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書に収録の写真(p.244・1～3)を投影。タイトルを最後に表示し、さけを認識させる。 ・北海道で水揚げされる、さけ以外の魚種についても確認する。
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ●p.245・5から漁業生産、6から市町村別漁業生産量を参照し、漁獲量と栽培漁業の変化を捉えさせる。本文から、北洋漁業の減少の背景と、栽培漁業への取り組みについて理解させる。 【問】なぜ北海道の漁業生産額は減少したのでしょうか。 【問】栽培漁業が行われている魚介類は何ですか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・p.245・5と6のグラフの読み取りを正確に行う。 ・排他的経済水域の拡大ならびに母川国主義の主張が生産量の減少時期と一致することに気づかせる。 ・人工ふ化は栽培漁業の一例である。貝類など、他の魚介類の養殖についても認識させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書 p.245・5から、漁業生産全体は1980年代からほぼ減少し続けていることを読み取らせる。 ・デジタル教科書 p.245・6を投影し、太平洋とオホーツク海側の市町村の生産量が多いことに気づかせる。 ・デジタル教科書 p.244 の動画「人工ふ化と水産資源」から、「育てる漁業」の様子を具体的に示すことで理解を深める。
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ●北洋漁業から栽培漁業への変化の背景を国際関係法と併せてまとめる。また、道内の河川環境の変化と対策にもふれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培漁業は、多岐にわたる、かつ長期的な事業であることに気づかせる。 ・周辺国との漁業環境にもふれておきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書 p.245・7を示し、漁業は海洋環境の保全に限らず、河川環境が重要であることを示唆する。

◆指導にあたって：

○本時では、まず漁業が国内事情の変化だけでなく、周辺国や国際関係法の変化による影響が大きい産業であることをおさえさせたい。漁業をめぐる現状については、多岐にわたる背景を順序だてて把握させながら理解に導くことが求められる。次にさけの人工ふ化を例に、栽培漁業はふ化や稚魚の放流に留まらないことから、生態系のすべてに影響することに気づかせたい。漁業をめぐる国内環境の変化と国際関係の変化が生産量の減少に影響を及ぼしていることを、漁業生産の変化を示したグラフから確認させたい。

◆デジタル教科書活用のねらい：

○デジタル教科書の「北海道の海面漁業生産の変化(p.245・5)」を活用し、北海道の漁業生産の変化の読み取りを項目ごとに行いながら、「とる漁業」から「育てる漁業」への転換を理解する。



- 画面下の「生産額の変化」をクリック：
教科書掲載の棒グラフよりも、生産額に占める栽培漁業生産額が明確にわかる。
⇒再度クリックして動きを停止できる。
- 生産量の折れ線グラフを重ねることで、特に生産量全体の減少傾向がわかる。
- デジタル教科書ならではの機能として、生産量の折れ線グラフ(各1本ずつ表示可能)、生産額の棒グラフ(生産額・栽培漁業生産額を強調表示することも可能)を別々に表示でき、情報が整理できる。

◆授業を終えての感想・今後の課題：

- p.245・5の棒グラフと折れ線グラフの読み取りがしっかりできた。
- 既習事項と p.245・6を関連づけたため、北海道で漁獲される魚種とその魚種が水揚げされる市町村がオホーツク海と太平洋に面する市町村であることが容易に結びついたようだった。
- 「育てる漁業」も、生態系の中に位置づけられるため、必ずしも計画通りには獲れるわけではないことから、絶えず試行錯誤が繰り返されていることにも気づいたようだった。

◆授業を終えての感想・今後の課題：

- 北海道の漁業というと、かにをあげる生徒が多い。一方で生徒たちのなかには、まぐろと声を上げるものもいた。生徒も、北海道ではほたて貝やすけとうだら、さけの漁獲が多いことは知っているものの、どこで水揚げされるかなどについては初めて知った様子であった。
- 動画によって、いくつもの工程があるさけの人工ふ化事業の様子がスムーズに学習できた。